

環境報告書

2021 ▶ 2022



Environmental
Report

目次

はじめに	3
あいさつ	4
環境マネジメント	5
環境理念	6
環境チャレンジ/SDGs	7
重点取り組み	8
生産環境方針の取り組み状況	9
工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み	10
使用量削減の取り組み	20
環境異常・苦情ゼロへの取り組み	21
CSR（環境分野）向上への取り組み	22
巻末データ	29

目次	はじめに	あいさつ	環境マネジメント			生産環境方針取り組み状況			巻末データ
			環境理念	環境チャレンジ/SDGs	重点取り組み	工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み	使用量削減の取り組み	環境異常・苦情ゼロへの取り組み	

はじめに

閲覧方法

各セクションの
トップに遷移します

 こちらのマークは
冊子外（外部接続）に
リンクしています



その他関連ページ

- トヨタ自動車九州 HP
- オールトヨタGreen Wave Project
- いきものMAP
- 使用禁止物質リスト
- グリーン調達ガイドライン
- 環境報告書 バックナンバー

発行日

2022年8月

対象期間

2021年度の環境取り組みを紹介しています。
(2021年4月1日～2022年3月30日)

あいさつ



生産環境委員会 委員長
車両本部 本部長
岩原 信隆

トヨタ自動車九州(株)（以下トヨタ九州）は、良き企業市民として自治体・地域とのコミュニケーションを密に図り、地域社会より信頼され、持続的に成長できるよう取り組みを進めています。

世界では持続可能な開発目標「SDGs」への関心が高まっており、私たちはトヨタグループの一員としてトヨタ環境チャレンジ2050を通して貢献しています。地球環境保全はSDGsの土台となる活動であり、中でも地球温暖化への対応として『カーボンニュートラル』に向けた動きが世界中で加速しています。

トヨタ九州では2030年にLEXUSのBEV(電気自動車)化など大きな変化に直面しています。「トップクラスの環境にやさしいものづくり」を掲げ、設計・開発・調達部門では「新車CO2」「ライフサイクルCO2」、生技・製造部門では「工場CO2」をそれぞれゼロにするべく、効率的な生産、設備、運用改善によるCO2低減と再生可能エネルギーの導入推進など社内推進体制を強化し、活動を推進しています。

また『循環型社会への貢献、地域共生、CSR向上』として環境異常苦情ゼロ、環境教育、自然共生活動など身近な環境課題への取り組みを通して地域社会から信頼される企業を目指しています。

私たちはこれからも人々が安心して住み続けることができる美しい地球を後世に残すため、環境問題を正しく理解し、必要な施策を実践してまいります。

本報告書を通じ、私たちの環境への取り組みを理解していただくとともに、皆さまから率直なご意見やご指導を賜り、さらなる環境改善に努め、信頼される企業を目指してまいります。

環境マネジメント

「社会の一員として共に歩み、 心から信頼される企業へ」



1. 地域社会より信頼される取り組み

- ・環境リスク未然防止

2. 地球環境保全への取り組み

- ・低炭素社会の構築に向けた取り組み
- ・循環型社会の構築に向けた取り組み
- ・環境保全と自然共生社会の構築



宮田工場



刈田工場



小倉工場

環境チャレンジ/SDGs

トヨタ環境チャレンジ2050 ゼロの世界にとどまらない“プラスの世界”の実現へ

ZERO “CO2ゼロ”を成し遂げる「ゼロへのチャレンジ」

<p>1  0</p> <p>新車CO2ゼロチャレンジ</p>	<p>ライフサイクルCO2ゼロチャレンジ</p> <p>2  0</p>	<p>3  0</p> <p>工場CO2ゼロチャレンジ</p>
--	---	---

トヨタ環境チャレンジ2050

PLUS “プラスの世界”を成し遂げる「プラスへのチャレンジ」

<p>水環境インパクト最小化チャレンジ</p> <p>4  0</p>	<p>5  0</p> <p>循環型社会・システム構築チャレンジ</p>	<p>人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジ</p> <p>6  0</p>
---	--	---

私たちは、この「トヨタ環境チャレンジ2050」の実現に向けた取り組みを通じて、SDGs*に掲げられた目標・ターゲットの達成に貢献します



世界を変えるための17の目標



* SDGs (Sustainable Development Goals) : 2015年9月の国連総会で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016～2030年の国際目標。17の目標と169のターゲットから構成される

2050年までに成し遂げるべき具体的アクションを6つのチャレンジとして宣言

重点取り組み

◆社会情勢 - SDGs : 国連持続可能な開発目標への取り組み

1)気候変動枠組み条約⇒日本の目標2030年に2013年比▲26%

- ・菅政権発足：2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す
- ・COP26：コロナ禍COP26は世界がクリーンでしなやかな回復のもとで団結する瞬間になる
- ・グリーンリカバリー：世界的な経済封鎖による温室効果ガス排出減、コロナ後持続可能な社会への転換を目指す復興プラン

2)生物多様性条約

- ・COP15：「ポスト2020 生物多様性世界枠組」

◆トヨタ自動車/オールトヨタ - 第7次取り組みプランスタート

1)工場CO2ゼロに向けた活動

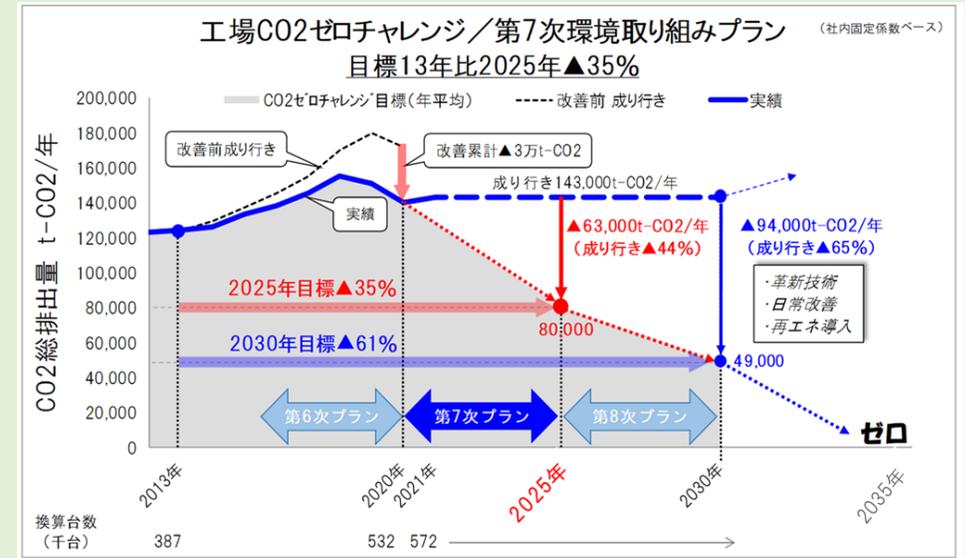
- ・CO2削減目標：2013年比2025年▲35%、2030年▲61%に向け活動加速
- ・再エネ導入目標（導入率）：2025年15%、2030年20%の取り組み推進

2)自然共生の取り組み

- ・グリーンウェーブプロジェクト：つなぐ活動強化、専用HPによる情報発信

◆トヨタ九州

1)原価低減、日常管理に則した効率的な環境取り組みの推進



生産環境方針の取り組み状況

地球環境にやさしいものづくり	循環型社会への貢献、地域共生、CSR向上
<p>■工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み</p> <p>1) 省エネ活動推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2主任管理者会議継続 ・低CO2生技予算（1塗装ブース、成形塗装工程）の着実な推進 ・日常改善の推進 <ul style="list-style-type: none"> ＞ オールトヨタアイテムの横展、やり切り活動推進 ＞ エネルギーロス設備改善実施（空調、エアー） ＞ 非稼働エネルギー低減推進 ＞ 現場運用改善推進 ・ベンチマークによる情報収集、比較による課題整理と対策立案 <p>2) 再生可能エネルギー導入推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電導入継続 	<p>■使用量削減への取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 原価低減、日常管理とリンクした各種使用量低減 2) 第7次取り組みプラン目標達成に向けた使用・排出量管理 <p>■環境異常・苦情ゼロへの取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) TEAM Kyushuでの環境違反の意識強化と未然防止 <ul style="list-style-type: none"> ・高リスクヒヤリの発生抑制、再発防止フォロー強化 ・オールトヨタ環境違反事例の横展と再発防止策の徹底 ・工場周辺地域の臭気濃度調査、情報共有 <p>■CSR（環境分野）向上への取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 環境マネジメントシステム（EMS）の確実な運用、内部監査実施と外部監査受審 2-1) 自然共生/自然と共生する工場への取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・行政、地域、トヨタグループとの協働の企画と実施 ・社内周知レベルアップ 2-2) 社内外関係者のエコマインド向上 <ul style="list-style-type: none"> ・社内外環境意識向上のため環境教育実施の継続 ・行政環境セミナーへの協働参画と動画PR推進



工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み

方針・社内体制



【方針体系】

中期経営計画

トヨタ自動車方針
トヨタ環境チャレンジ2050
環境取り組みプラン

会社方針

方針管理

日常重点管理

生産環境方針（機能方針）

工場方針
各部方針

【工場CO2ゼロチャレンジ推進体制】

生産環境委員会（年2回）

環境保全組織

CO2低減推進組織
CO2主任管理者・推進メンバー

CO2主任管理者会議（年6回）
各ショップ総括窓口（GMクラス）

- ・活動進捗確認
- ・改善アイテム共有
- ・実行課題、しくみ協議 など

製造部

革新技術導入・日常改善



工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み

2035年工場カーボンニュートラル達成に向けた方策

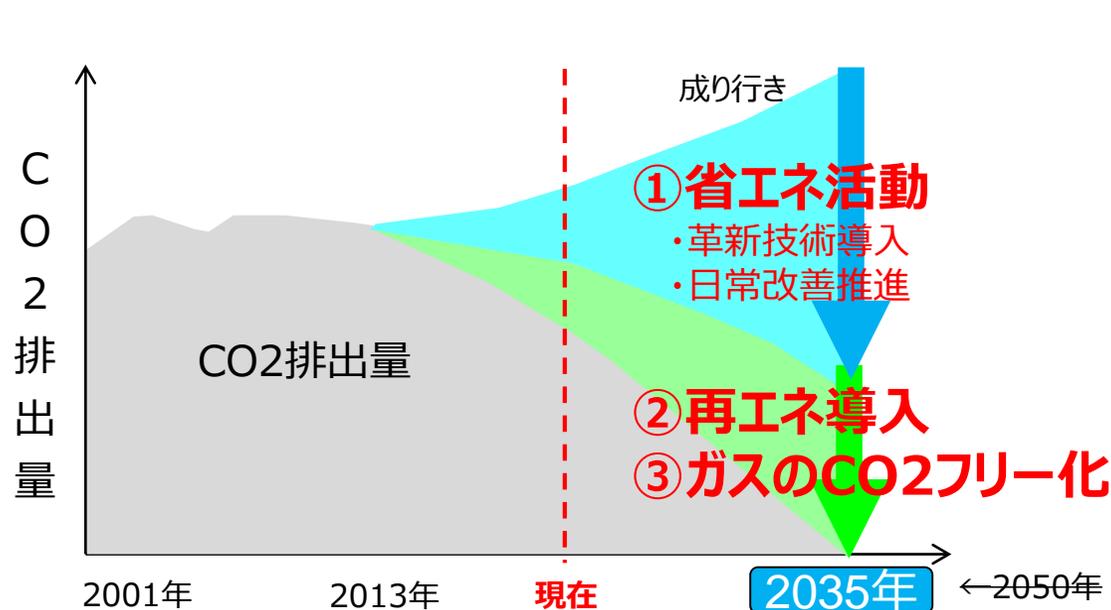
TMK2035年工場カーボンニュートラルへの方策

※P13で解説

2021年、トヨタグループとして工場カーボンニュートラル達成時期について2050年から2035年へ前倒しを発表しました。

トヨタ九州では、生産設備への革新技術導入や日常改善推進による

- ①省エネ活動、太陽光発電導入などの②再エネ導入、水素利活用などの③ガスのCO2フリー化により、2035年工場カーボンニュートラルを目指します。



①省エネ活動

- ・グループ会社との連携による革新技術導入と製造現場でのESCO活動※を中心とした日常改善

【データ管理】

- ・実績まとめ&報告
- ・目標管理&評価
- ・情報見える化
- ・省エネ法対応 etc.



【計画立案】

- ・革新技術導入
- ・日常改善推進
- ・CO2目標設定
- ・ロードマップ策定 etc.

②再エネ導入

- ・オンサイト、オフサイト全方位での再エネ導入

③ガスのCO2フリー化

- ・水素運用継続と利用設備の拡大検討

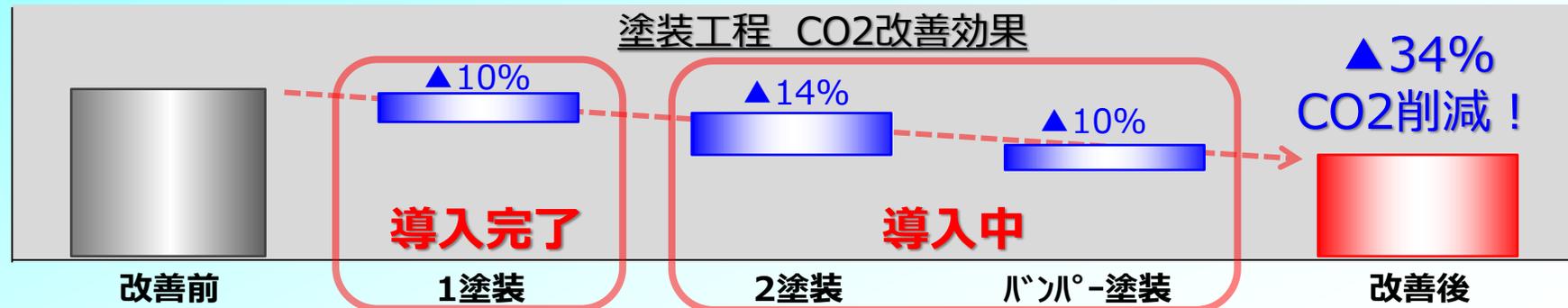


工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み

省エネ活動推進

【革新技術 事例：塗装ブース革新技術導入】

エネルギー使用量の大きい塗装工程では、さまざまな革新技術を導入、また同様工程への展開を進めています。





工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み

省エネ活動推進

【日常改善 事例：ESCO(省エネ)活動】 Energy reduction Support & Cooperation（エネルギー低減・支援 & 協業）

原動力部門と製造部門が連携・協業して、日々の身近な省エネアイテムの掘り起こしに取り組んでいます。

【活動イメージ】

＜原動力部門＞

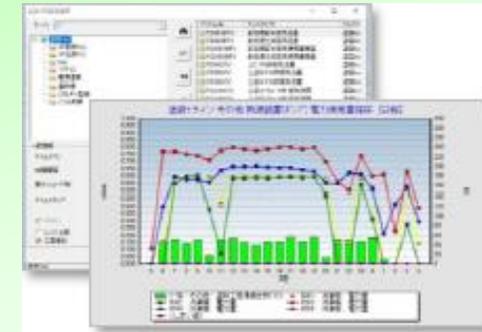
省エネ/インフラ知識・
計測スキル・データ解析 etc.



協業

＜製造部門＞

生産工程/設備知識・
実行力・日常管理/保全 etc.



【活動の流れ】

現地・現物
調査

詳細調査
効果試算

アイテム
層別

対策
実施

評価
フォロー

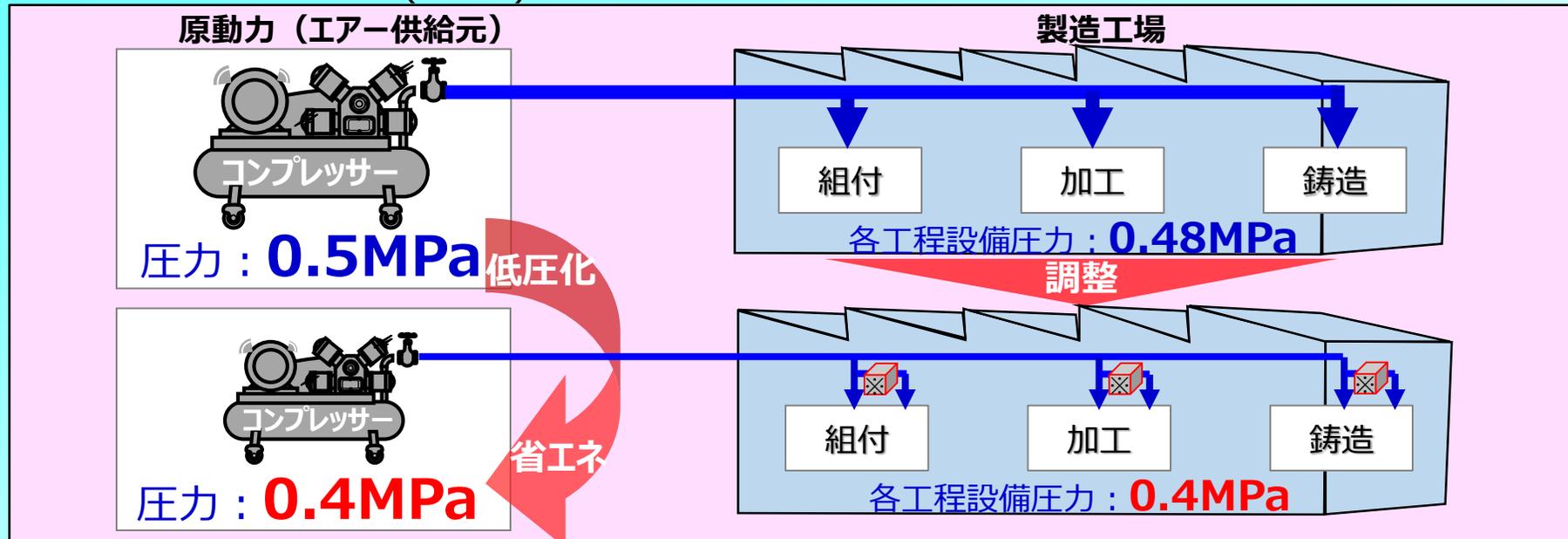


工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み

省エネ活動推進

【日常改善 事例：工場エア—低圧化】

数十/数百台ある各工程設備の一台一台を調整し、工場エア—供給元の低圧化(省エネ)につなげる活動に、工場一体となって取り組んでいます。



※圧力不足の設備は個別に増圧機などで対応

【活動の流れ】

対応設備
洗い出し

対応案
検討・対策

トライ実施
品質確認

不具合
対応

号口化



工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み

省エネ活動推進

【建築事例 MPファクトリー（宮田工場）】

新規建屋は省エネアイテムを最初から織り込んでいます。
2021年12月に宮田工場に多目的用途として建てた「MP
ファクトリー」は、建物省エネアイテムや再エネ活用として太陽
光発電などを取り入れています。



外観

CO2排出量従来比：▲36%減

〈空調負荷削減-屋根断熱〉

W折半屋根

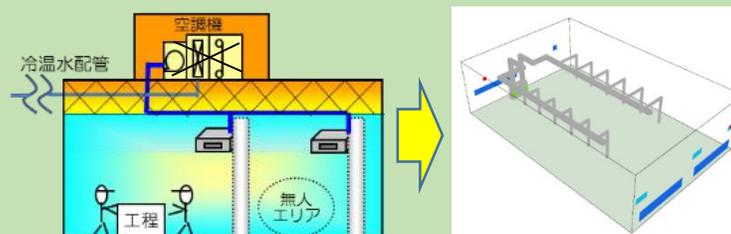


・通常の折半屋根の3倍断熱性が高い

〈空調範囲の最小化-個別空調〉

全体空調

個別空調



・空調が必要な箇所に必要な量を提供

〈再エネの活用〉

太陽光発電



・屋上に0.25MWの太陽光パネルを設置



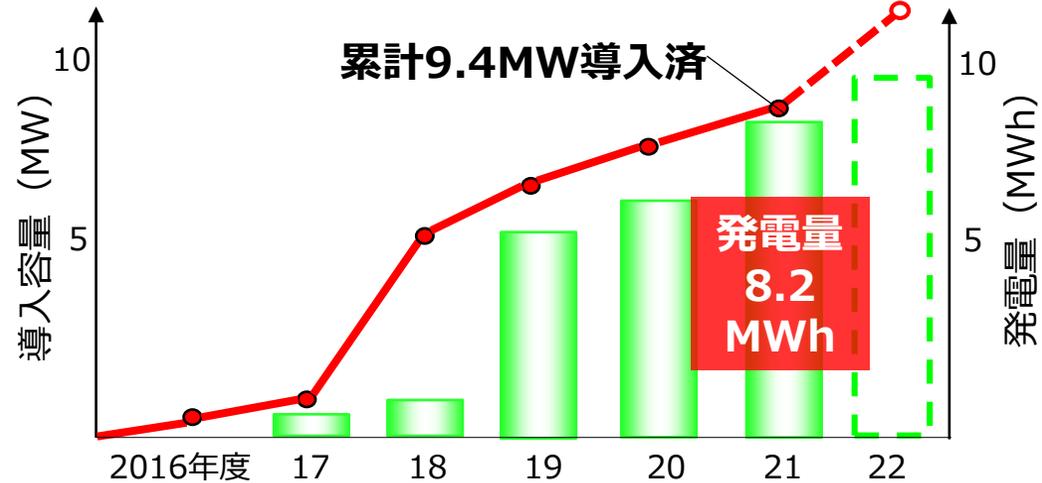
工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み

再エネ導入推進

【再エネ 事例：太陽光発電導入】

再生可能エネルギーの利用拡大に向けて、2016年度から太陽光発電導入を推進しています。

【導入実績と計画】



2021年度の実績で、8.2MWh（約1,800世帯分）の電力を発電しており、年間3,900ton分のCO2を削減しています。
2022年度以降も継続して太陽光発電導入を計画しています。

【2021年度導入実績】



宮田工場

【設置場所】
MPファクトリー屋上

【設置容量】
0.25MW

【設置場所】
パワートレーン工場屋上

【設置容量】
1.1MW



苅田工場

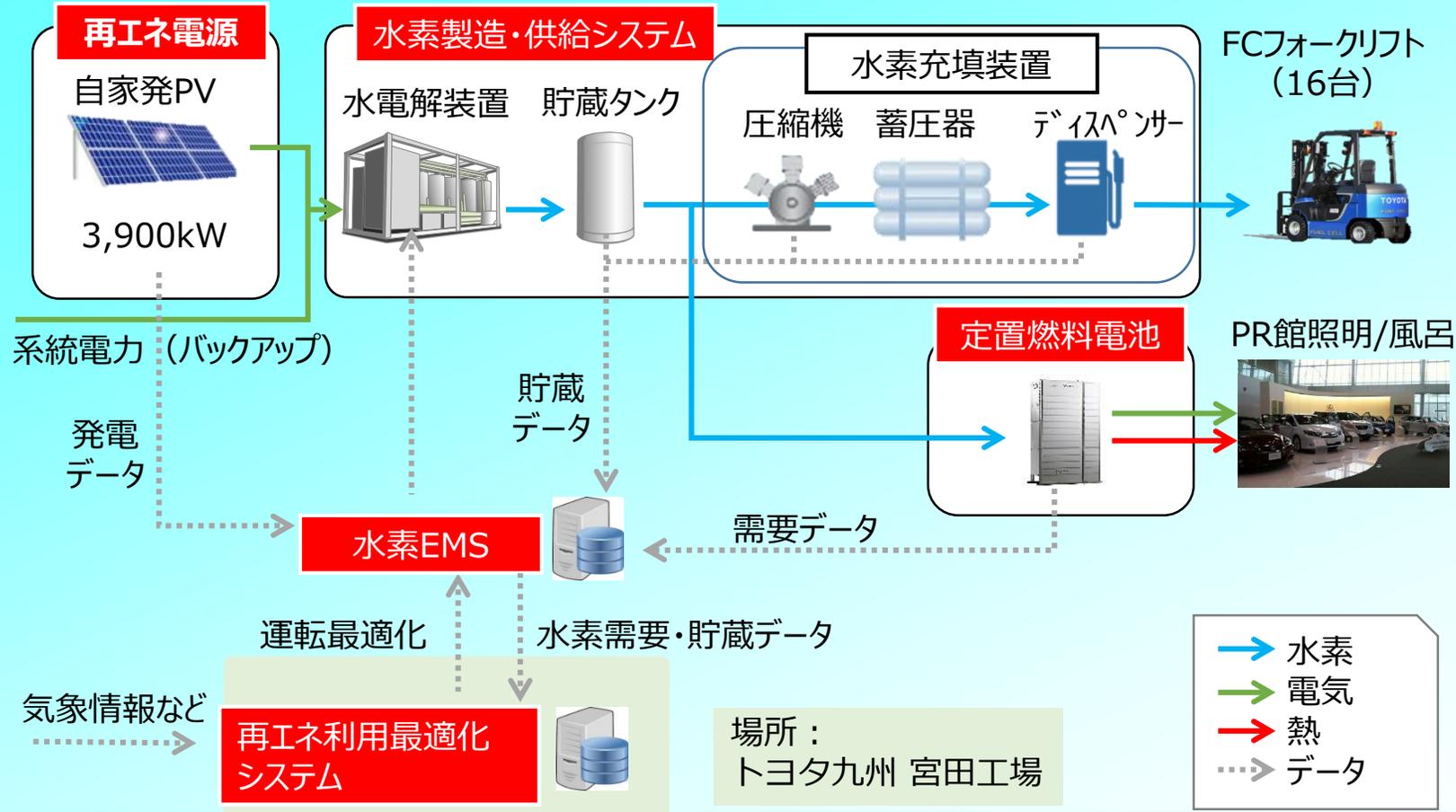


工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み

ガスのCO2フリー化

トヨタ九州ではガスCO2フリー化の一つとして、2017年より水素利活用に取り組んでいます。

水素エネルギーマネジメントシステム（2017年導入）



トヨタ九州では再エネから水素を生成し、その水素で水素フォークリフトを動かす実証を実施してきました。

現在はこれまでの実証、運転を通し、水素普及に向けて

- ①水素製造コストの低減
- ②水素利用用途の拡大

に取り組んでいます。

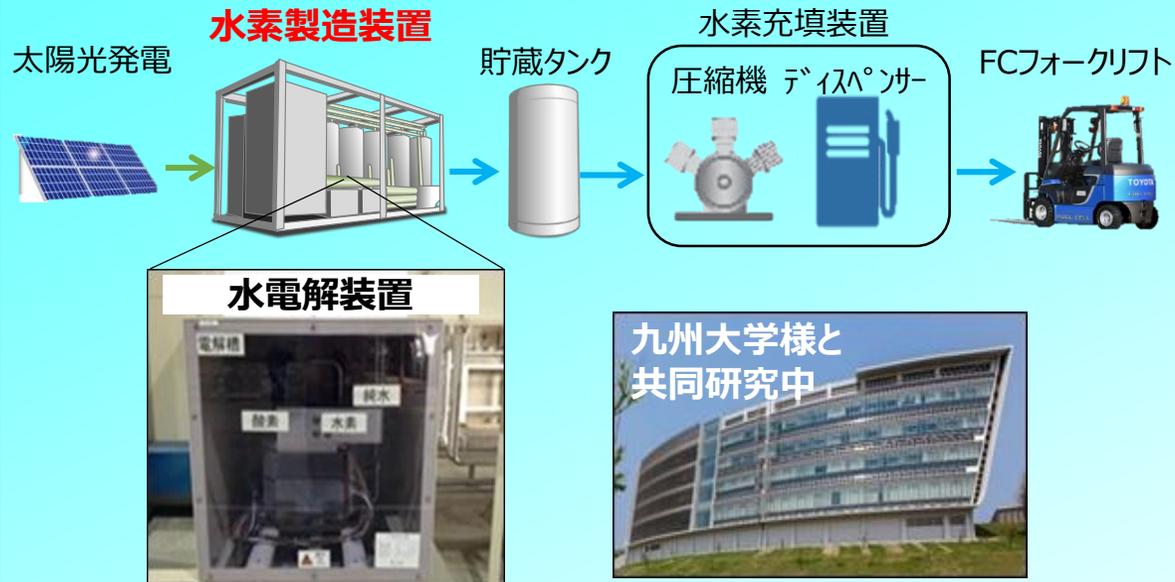


工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み

ガスのCO2フリー化

2021年度は水素エネルギー普及に向け、①水素製造コスト低減に向けた「九州大学様と水素水電解装置の共同開発」②水素利用用途の拡大「スーパー耐久レース 水素エンジン車への水素活用」を推進しました。

【①九州大学様との水素水電解装置の共同開発】



九州大学様と水素製造装置の主要機器である水電解装置の延命化に取り組んでいます。

今後も再エネ由来のグリーン水素を活用し、カーボンニュートラルを目指してまいります。

【②スーパー耐久レース 水素エンジン車への水素活用】



トヨタ自動車ではカーボンニュートラルの選択肢を増やす取り組みとして、スーパー耐久レースで水素エンジン車を投入しています。トヨタ九州もこの活動の一員として、また、水素活用拡大に向け、自社で生成したグリーン水素をレースに提供しました。



使用量削減への取り組み

日常改善（水使用量・廃棄物他）

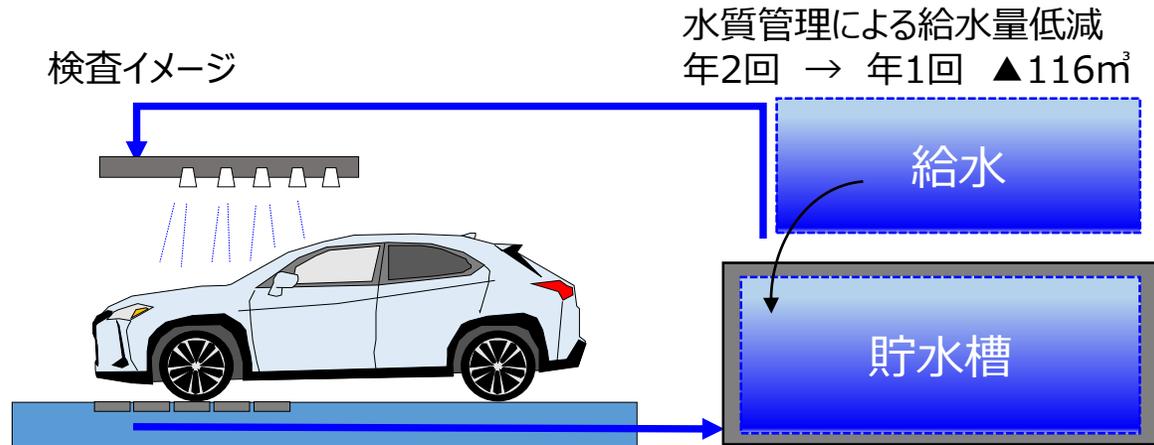


日常の生産活動や業務の中でさまざまな物が発生、排出されます。排出量を削減し、環境負荷を低減できるよう、従業員一人ひとりが考え、日々改善に取り組んでいます。

【水使用量低減】

完成車両の検査で使用する水の貯水槽の清掃を定期的実施しています。

この水の状態を監視、貯水槽の清掃頻度を適正化し、給水回数を減らして水使用量を低減しています。

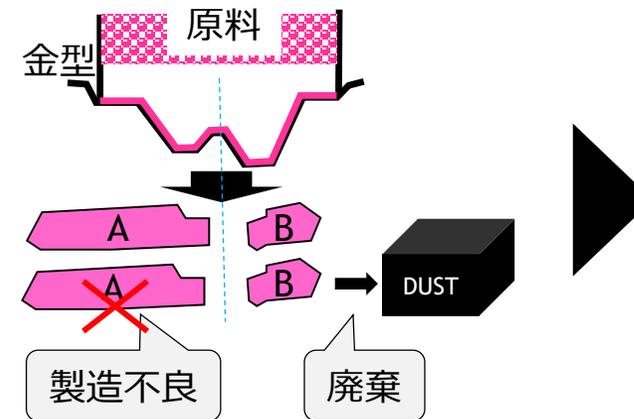


【廃棄量低減】

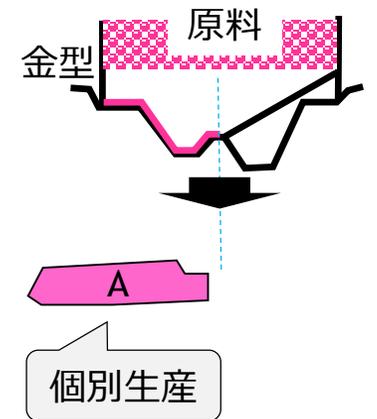
内装樹脂部品2種類を同時に生産しており、一方が製造不良になるともう一方は良品でも枚数に偏りが生じるため廃棄していました。

これを製造不良が出た1種類の部品だけを製造できるように改善し、廃棄物を低減しています。

〈改善前〉



〈改善後〉



環境異常・苦情ゼロへの取り組み

環境違反意識強化と未然防止



【異常処置訓練】

工場からの油や排出物を社外へ漏洩、流出させないために、しっかり日常点検しています。また、緊急事態にもすぐに対応できるように、社内の各部署で異常処置訓練も実施しています。訓練の中で指摘や改善箇所を見つけてスパイラルアップし、情報を共有して意識向上に取り組んでいます。

〈訓練の内容〉

地下タンク内でガソリン漏洩を想定した訓練の実施



△責任者による作業指示



△訓練の様子：検知薬を検知棒へ塗布



合
否
判
断

【仕入れ先様入構前環境教育】

従業員だけでなく、社外関係者など工場で働く全ての人の環境意識を高め、環境異常違反を起こさないように、入構前に環境教育を受講いただいています。車両の油漏れがないか、乗車前点検で異常がないかなど確認いただいています。

【作業責任者更新教育など】

工場内で作業する各社の責任者様へ社内の環境取り組み内容を伝えていきます。伝達内容を社内へ持ちかえっていただき、職場へ周知・展開、工事当日のメンバーへ徹底することで環境違反の未然防止に寄与いただいています。社内外関係者が連携を取ることで環境異常違反が起きないように協力体制を整えています。



CSR（環境分野）向上への取り組み

人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジ

【取り組みの基本的な考え方】

生物多様性の重要性を認識し、トヨタ基本理念に基づき、住みよい地球・豊かな社会の実現と、その持続的な発展を目指し、自動車・新規事業・社会課題への貢献などにおいて、生物多様性に取り組みます。

1) 自然共生活動/生物多様性の取り組み

All Toyota Green Wave Project

1-1. 自然と共生する工場づくり

1-2. 外来生物駆除

1-3. 地域と共に自然回復・里山整備の推進



2) 未来づくりへの取り組み

ESD※ Project

2-1. 自然体験などを通じた子どもたちへの学習支援

※ESD（Education for Sustainable Development）：持続可能な開発のための教育

1-1. 自然と共生する工場づくり

トヨタ九州では『人と自然が共生する未来づくり』の一環で『自然と共生する工場づくり』をしています。今回はその取り組みについて紹介します。



“Plant in Harmony with Nature”

〈自然と共生する工場とは？〉

《生態系ピラミッド》

《生きもの指標種》
食物連鎖の観点より
地域特有のシンボル種
↓
生息環境の維持改善



- 取り組みⅠ 地域に応じた指標種の選定
- 取り組みⅡ 指標種生息環境の維持改善
- 取り組みⅢ 指標種の継続的な効果把握
- 取り組みⅣ 従業員自ら活動し人財の育成
- 取り組みⅤ 地域の皆様と協働し、
コミュニケーション促進



CSR（環境分野）向上への取り組み

自然共生活動



1-1. 自然と共生する工場づくり

【宮田工場周辺の生態系調査・整備活動】

イベント情報	活動内容	協働先
有木公園整備	草刈り、生態系調査	宮若市

- 1) 日程 2021年4月～8月 場所 宮若市 有木公園
- 2) 参加者 15人



1-2. 外来生物駆除

【宮若市ご協力の下オオキンケイギク駆除活動】

イベント情報	活動内容	協働先
特定外来生物の駆除	オオキンケイギクの駆除	宮若市

- 1) 日程 2021年5月 場所 宮田工場周辺
- 2) 参加者 延べ86人、実施回数30回、駆除数86袋





CSR（環境分野）向上への取り組み

自然共生活動/生物多様性の取り組み



1-3.里山整備・自然回復の推進

【自然回復への取り組み】

イベント情報	活動内容	協働先
アダプトプログラム	さつき松原の整備	宗像市

- 1) 日程 2021年10月～12月 場所 宗像市海岸線
- 2) 参加者 延べ166人、実施回数2回



【里山保全活動】

イベント情報	活動内容	協働先
等覚寺整備	棚田の整備、コスモスの花植えなど	苅田町

- 1) 日程 2021年11月～12月 場所 苅田町等覚寺地区
- 2) 参加者 延べ39人、実施回数2回



△農林水産省選定「農村景観百選」指定
苅田町等覚寺地区の景観保全活動





CSR（環境分野）向上への取り組み

未来づくりへの取り組み



2-1. 自然体験などを通じた子どもたちへの学習支援

【使用済みろうそくの再生を通じて3Rを学ぶ】

イベント情報	活動内容	協働先
クリスマスキャンドルづくり	親子リサイクル体験	黒丸むらおこしの会様

- 1) 日程 2021年12月5日 場所 宮若市 清水寺
- 2) 参加者 親子10組（計30人）



【環境にやさしい竹灯籠イベントにMIRAI提供】

イベント情報	活動内容	協働先
竹灯籠展示イベント	CO2フリーな電気を提供	黒丸むらおこしの会様

- 1) 日程 2021年12月26日~2022年1月2日 場所 宮若市 清水寺
- 2) 見学者 延べ300人



環境経営

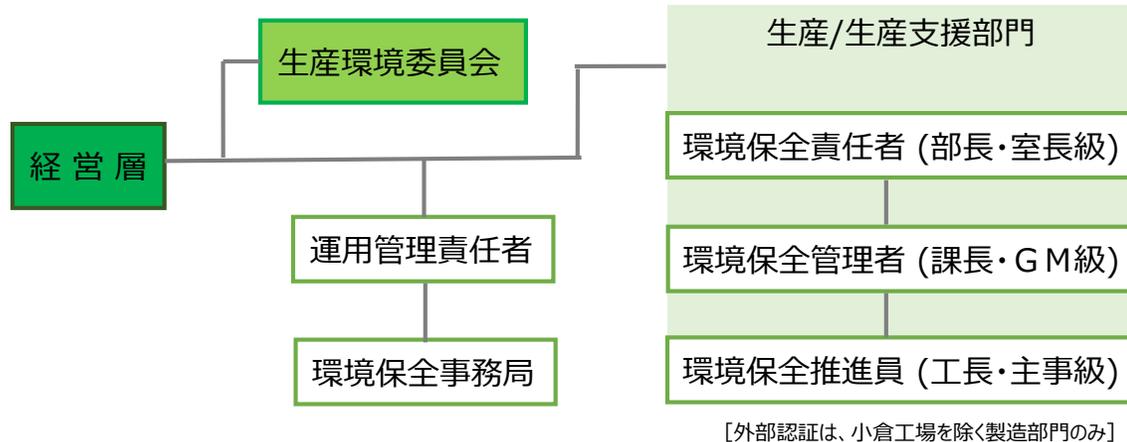
CSR（環境分野）向上への取り組み

ISO14001の認証継続

【環境マネジメントシステム（以下EMS）の確実な運用、内部監査実施と外部審査受審】

■トヨタ九州は、役員と部長級で構成する生産環境委員会を設置し、環境目標の審議・決定やEMSの運用状況を確認しています。

【環境保全組織体制】



■ISO14001のEMS運営

1998年4月にISO14001を認証取得して以降、EMSのツールを活用した環境保全活動の継続的な改善に、自主的かつ積極的に取り組んでいます。2018年2月に「ISO14001:2015版」の認証登録を完了し、事業と環境との課題を解決するべく、両者を統合化した活動を進めると同時に、目まぐるしく変化する社会に対応した戦略的な環境経営を目指しています。また、生物多様性や自然共生の取り組みなど、地球環境保全に貢献していきます。

■環境内部監査

ISO14001規格の要求事項に対してトヨタ九州のEMSが有効に運用されているかを確認するため、定期的な環境内部監査を実施しています。監査員の養成は環境マネジメントマニュアルなどを用いて、外部機関の講師による実践的な教育訓練を実施しています。

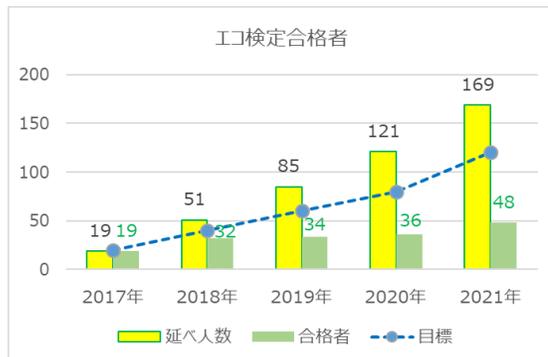
環境経営

CSR（環境分野）向上への取り組み

啓発/教育による従業員エコマインド向上

【eco検定※の取得推進】

トヨタ環境チャレンジ2050の達成に向けて従業員の環境への関心・理解を深め、アクションにつなげることを目的として「環境人財づくり」を推進しています。管理者から部内メンバーに情報発信して社内全体の環境意識を底上げできるよう、社内環境活動を推進する環境保全組織構成員(約160人)が順にエコ検定を受験しています。また、受験した管理者からの話を聞き、関心を持った従業員が、仲間を集い、受験して合格するなど、環境意識の高まりをみせています。今後も継続して環境意識向上に取り組めます。



△環境保全活動推進を図り、組立部が個人受験した従業員(左写真 前列5人)を表彰

※eco検定：環境に関する幅広い知識を獲得できる検定です
東京商工会議所エコ検定サイト内の「eco検定推進企業」としてトヨタ九州の紹介も掲載中です！

トヨタ自動車九州株式会社
(福岡県・宮若市) 輸送用機械器具製造業

【環境イベント動画 YouTubeで社外発信】

①親子自然観察会 有木公園



②クリスマスキャンドル制作 笠松小学校



地域の皆様や従業員、関係者の方々へトヨタ九州の自然共生活動を知っていただき、より多くの方にご参加していただけるように、2021年からYouTubeで動画配信を開始しました。工場付近の有木公園で実施した親子自然観察会や、余剰竹林を伐採して作った竹灯籠の使用済みろうそくを再利用し、クリスマスキャンドルを作る様子などがご覧いただけます。



いいね！と
お気に入り登録も
お願いします！！

環境経営

CSR（環境分野）向上への取り組み

啓発/教育による従業員エコマインド向上

【地球環境月間】

毎年6月を『トヨタ地球環境月間』と位置づけ、さまざまな行事を実施しています。今年も大規模なイベントは控え、環境への関心・理解を深め、自発的に考動できる人づくりをかね、啓発資料の展開や少人数での省エネ体感を数回に分けて実施するなど、環境意識向上のための環境月間としました。

〈啓発資料：Eco news〉

環境に関する世界・国内の動向やトヨタ九州の取り組みを紹介する『Eco news』を全社員向けに社内メール、社内ポータルで展開しています。昨年より、環境クイズなどを織り込んだ環境への関心を持ってもらえる内容を中心にレイアウトを一新し、毎月定期的に発信しました。

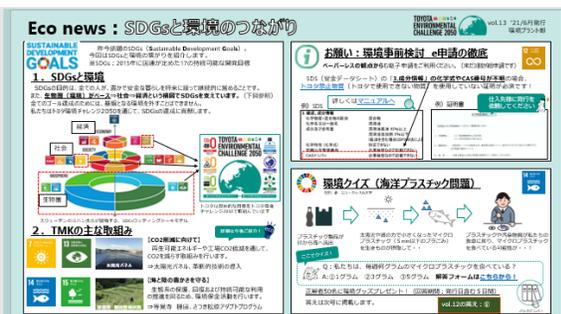
〈紙製クリアファイル配布〉
海洋プラスチックごみ問題などの背景から、従来のプラスチック素材ではなくFSC認証※素材（紙製）のクリアファイルを作成し、職制の皆さんへ配布しました。自組の環境教育や組内回覧などで活用されています。



※ FSC認証は環境、社会、経済の便益に違い、きちんと管理された森林からの製品を目に見える形で消費者に届け、それにより経済的利益を生産者に還元する仕組み。



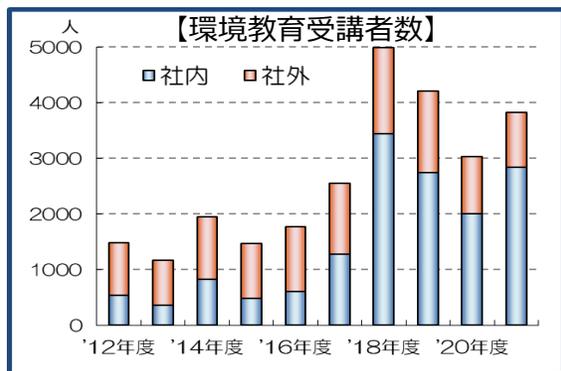
△Vol12 カーボンニュートラルに向けた省エネ



△Vol13 SDGsと環境のつながり

【環境教育の活動】

環境の取り組みに関する各種教育を社内外で実施しています。社内では階層別教育、構内で作業する社外の方へは周辺環境や構内での注意事項などについて伝達教育を実施しています。



巻末データ

[CO2排出量の推移]



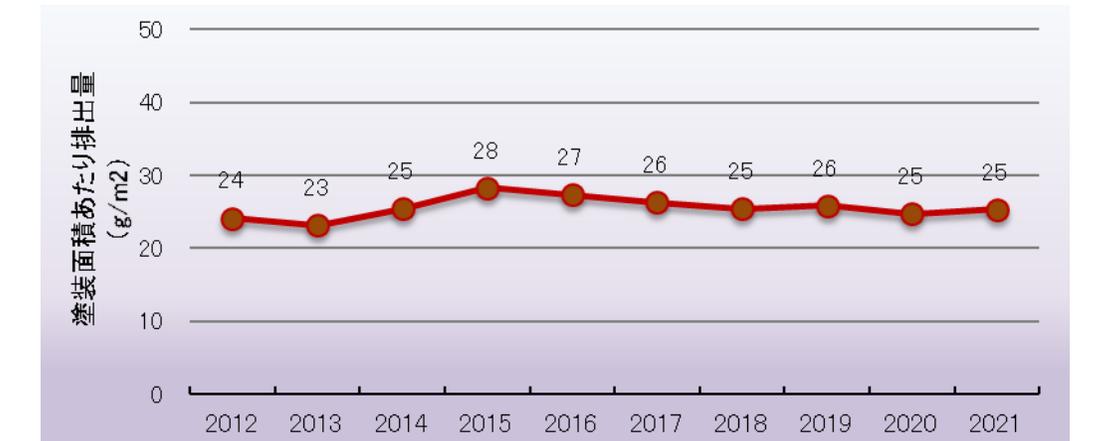
[廃棄物（※）排出量の推移] (※) 全て逆有償リサイクル処理



[車両・エンジン・ハイブリッド部品生産数の推移]



[VOC排出量の推移]



このページに関するアンケート

今後の環境報告書づくりに向けてご協力ください。



<https://forms.office.com/r/BptuBSfN86>